



野村万作・萬斎・裕基 狂言二代の夕べ

文京シビックホール25周年記念公演

2023年秋、文化勲章を受章した
野村万作、映像作品・現代劇等でも
活躍する野村萬斎、若手の注目株・
野村裕基の親子三代による
狂言の妙技をお楽しみください。

出演

野村万作

野村萬斎

野村裕基

万作の会



2025年

1月16日 木

18:30開演(17:45開場)

文京シビックホール
大ホール

料金(全席指定・税込)

S席5,500円 A席4,500円 B席3,500円

チケット好評発売中!

チケットのお求め・お問合せ

シビックチケット 03-5803-1111

東京都文京区春日一丁目16番21号 文京シビックセンター2階
(10:00~19:00 土・日・祝日も受付。ただし、12/28(土)~1/4(土)は休業。)

チケットぴあ <https://t.pia.jp/>

シビックホールメンバーズ インターネット限定で
入会金・年会費無料 <https://b-civichall.pia.jp/>

※未就学児のご入場はご遠慮願います。
※都合により出演者・演目が変更になる場合がございます。
※ご予約後の変更およびキャンセルはお受け出来ません。
※公演中止の場合を除き、ご入金後の払い戻しはいたしません。

番組解説
小舞「八島後」
賞賀
素癪子「高砂八段」
煎物



〒112-0003 東京都文京区春日 1-16-21
文京シビックセンター 1F

●交通アクセス

- ・東京メトロ丸ノ内線・南北線
「後楽園」駅【直結】
- ・都営地下鉄三田線・大江戸線
「春日」駅【直結】
- ・Bーぐる(文京区コミュニティバス)
停留所1番
「文京シビックセンター(春日駅前)」

<https://www.b-academy.jp/access/>



follow us @ BunkyoCivicHall



番組

解説 野村 萬斎

小舞 八島 後 野村 太一郎

賞 賀 舅 野村 万作

— 休憩 —

素 囃 子 高 砂 八 段 大 鼓 原 岡 一 之 太 鼓 林 雄 一 郎 小 鼓 田 邊 恭 資 笛 藤 田 貴 寛

煎 物 煎 物 売 野村 萬斎

何 某 野村 裕 基 立 衆 高 野 和 憲 中 村 藤 連 飯 田 修 一 岡 聡 史 後 見 月 崎 晴 夫

あらすじ

賞 賀

酒を飲んで帰宅した夫が、酔った勢いで妻を追いついてしまふ。泣く泣く実家に戻った妻は、たびたびの夫の酒乱に呆れ果て、帰宅を促す父親の説得にも一向に応じない。翌朝、酔いが覚め後悔した夫は、舅を訪ね、妻を返してほしいと頼むのだが……

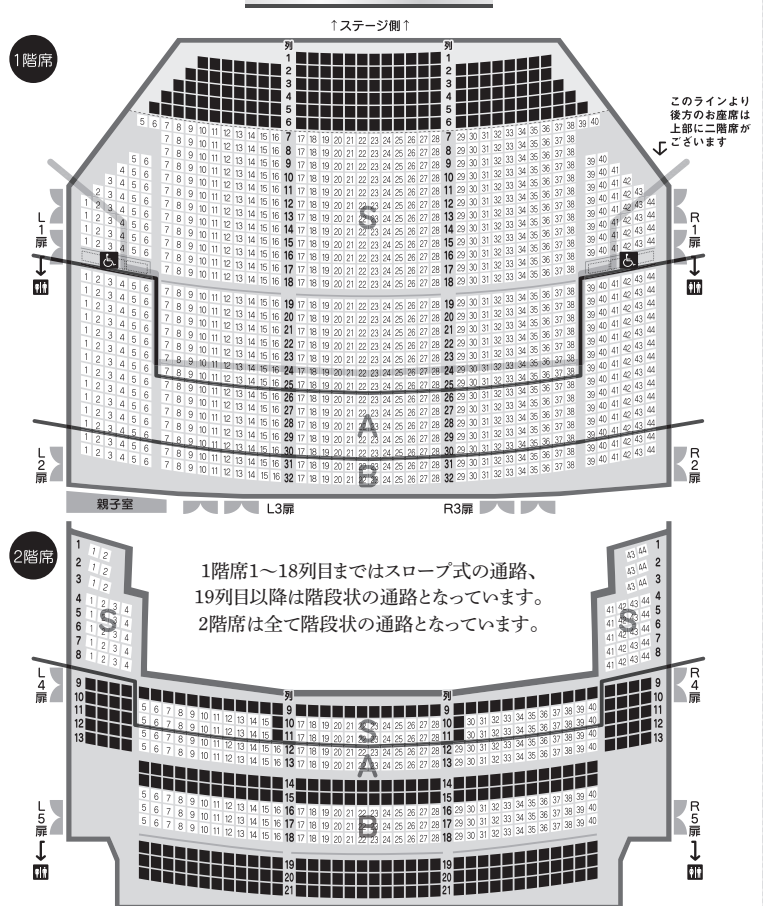
現代でもよくいる酔っ払い、酒癖の悪い仕様の男を取り巻くお話ですが、三者三様の人間味溢れる登場人物の姿に、変わらぬ人の営みが感じられる狂言です。

煎 物

人々が集まって、祭りの囃子物の稽古をしているところへ、煎物(葉草などを煮出したもの)売りがやってきて、皆に煎物を勧めて回る。稽古の邪魔になるといわれた煎物売りは、邪魔にならないように拍子に掛かって売ることにする。やがて祭りが始まる……

煎物売りの姿は、中世の商いの様子を彷彿とさせます。平成十二年に「野村狂言座公演」においてほぼ復曲に近い形で上演して以来、再演を重ねています。囃子の声が響き渡る、賑やかな狂言です。

大ホール座席表



野村万作
のむら まんぞく
一九三一年生。重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)。



野村萬斎
のむら まんざい
一九六六年生。祖父故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。東京藝術大学音楽学部卒業。



野村裕基
のむら ゆうき
一九九九年生。野村萬斎の長男。祖父・野村万作及び父に師事。慶応義塾大学法学部卒業。能楽協会会員。三歳の時に『靉猿』で初舞台後、子方として国内外で多数の舞台に出演。修業を続け、『三番叟』『奈須与市語』『釣狐』を抜き、万作の会合の若手狂言師の一人として舞台を動いている。二〇二三年三月には世田谷パブリックシアター『ハムレット』でタイトルロールを演じ、活動の場を広げている。

室、文化功労者、日本芸術院会員。二〇二三年文化勲章受章。祖父故初世野村萬斎及び父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。軽妙洒脱かつ緻密な表現のなかに深い情感を湛える、品格ある芸は、狂言の二つの頂点を感じさせる。狂言の技術の粋が尽くされる秘曲『釣狐』に長年取り組み、その演技で芸術祭大賞を受賞したほか、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、松尾芸能賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、旭日小綬章、中日文化賞、ジャパン・ソサエティ賞等、多数の受賞歴を持つ。月に憑かれたビエロ「子午線の祀り」「秋江」「法螺待」「敦・山月記」「名人伝」等、狂言師として新たな試みにもしばしば取り組み、現在に至る狂言隆盛の礎を築く。